

令和7年度 科目等履修生・聴講生開講科目一覧

区分	開講科目名	開講年次	開講時期	時間割		単位数	募集人員	科目担当責任者	講義概要
				曜	開講時間(講目)				
一般教育科目	生物学1	1	前期	火	3	1	3	佐々木泰史	教養科目としての生物学は、医学、および保健医療学を学ぶための知識基盤として極めて重要である。1学年前期「生物学1」と1学年後期「生物学2」では、保健医療学部生が、備えておくべき生物学の教養を網羅する。医学系の専門基礎科目で学ぶこと、あるいは学んだことについて理解を深めることで、生涯学習者としての医療人の学習基盤をつくる。「生物学1」では、生物学の分野のうち、分子生物学、基礎遺伝学を中心とし、医学、医療に直接関連する内容を多くした。今後推進されつつあるゲノム医療についても理解を深める。当大学で積極的に行われているバイオインフォーマティクスに関しては、医学部教員が講義を担当する。第1、2回目の講義では、入試で生物を受験しなかった学生に対するリメディアル科目としての役割も担う。
	生物学2	1	後期	火	4	1	3	鈴木健史	本科目の目的は、生物学の考え方を理解し、医学および医療を生物学的視点や進化の視点で考えるための素養を身につけることである。このため生物の基本的な生存戦略を学んだ上で、無性生殖や有性生殖などの増殖様式や、性の生物学的概念を理解する。また、生態系における生物多様性の重要性について十分に理解した上で、生態系の一部としての「人間」について学ぶ。さらに、生命の起源と進化のしくみを理解した上で、医学や医療を生物学および進化的な観点から考え直す「進化医学」の考え方を学ぶ。
	物理学	1	前期	月	2	2	3	高塚伸太郎	医療の現場で起こる現象や医療機器の原理を科学的に理解し応用する力を身につけるために基礎的な物理学を広く修得します。本学習では、高校物理の基礎から応用までを丁寧に取り上げ、医療機器を題材に基本的な概念や法則を幅広く学びます。数式をただ覚えるのではなく、日常生活や技術に関連する現象を数式を用いて深く理解し、実践的に活用できる能力を修得します。
	化学1	1	前期	火	3	1	3	有木茂	化学1では、生命現象を理解するために必要となる化学の基本的事項として、原子の構造、化学結合、物質の状態、浸透圧、緩衝作用、酸化還元反応について学ぶ。また、我々の体を構成する基本分子である水・アミノ酸・糖・脂質・ヌクレオチドに焦点を置き、これらの物質の構造と基本的性質を理解し、これらの物質が生体の中でどのような役割を果たしているのかを学ぶ。
	化学2	1	後期	火	2	1	3	有木茂	生体内では多数の化学反応が同時に行われ、これらが正常かつ適切に連携することで生体恒常性が保たれており、その破綻は疾患に繋がる。本講義では、まず、生体内の化学反応の概要を、分子の構造と機能に基づいて説明がなされる。つづいて、生体内の主要な代謝経路である、糖、脂質、アミノ酸、ヌクレオチドについて、代謝機構の概要を教授し、それぞれの代謝と疾患との関係について解説を加える。また、高分子化合物の構造と機能を疾患および医療への利用の観点から解説する。
	心理学概論	1	前期	水	3	2	3	高橋義信	心理学は、「経験と行動の科学である」と言われています。心理学を学んだことのない人にとって、この言葉が意味する内容は、皆目見当のつかないことかもしれません。いわゆる面白心理学は、学問的な心理学とは似て非なるものです。本講義では、この点を強調しながら、心理学の何たるかを多面的に論じます。とくに心理学の基礎全般と、医学への応用が重要です。本講義を通して、心理学の基礎を理解すること、また、医学と心理学のつながりに理解の深まることを望みます。本講義は医学部と保健医療学部の共通合同講義となっています。
	倫理と哲学	1～2	後期	火	1	2	3	松木祝	近年、医科学や医学的治療はめざましい進歩をする一方で、患者は幸福を願って、よい治療を求める心の問題を抱えている。こうした人々が期待する恩恵と同時に、直面する問題点を理解するために、まず、医療倫理の歴史を学び、次に、不治の病、延命、不妊治療をめぐる日本および世界の動向を学ぶ。また、話題になっている医療記事を取り上げ、倫理的問題点を指摘し、海外と日本の現状を比較する。患者の多様な人間観、生命観、死生観を深く理解できるように、古今の哲学者思想家たちの人間、生命、死についての考え方を学ぶ。また、近代以降発達した科学技術、そして人間性、さらにはケアの思想についての哲学思想家の考えを学ぶ。各人は自分の意見を持つだけではなく、グループ討論をする中で、多様な意見に触れ、多角的な思考能力を身につける。
	教育学	2	前期	火	1	2	3	高橋義信	教育学に関する全般的な理論や歴史を学び、今日の教育が直面する現代的諸課題を理解することを目的にする。受講者は自分が受けてきた教育を相対化することで、自らの教育的関心や基盤を知り、それを教育の諸理論に結びつけて考える。
	社会学概論	1	前期	火	5	2	3	桜木真理子	現代の保健医療の領域において必要な社会学の基礎的知識と探究方法について学ぶ。「人間の行為」「社会の秩序」「社会の構想」という3つの理論的領域に分けて、社会学の基本を理解する。個人のふるまいや思考を水路づけている社会の動きについて多様な事例と方法論的アプローチを使って包括的に理解する。
	法学と日本国憲法	1	前期	水	2	2	3	旗手俊彦	1.日本国憲法の意義、歴史について取り扱う。 2.日本国憲法の基本的人権保障と統治機構に関する現代的論点を取り扱う。 3.人間のライフステージに沿った法律の仕組みと法的問題点を取り扱う。 4.医療・福祉に関係する法律の他、各種ガイドラインの制定趣旨、拘束力、現代的課題を取り扱う。
	文化人類学	2	前期	火	2	2	3	桜木真理子	ケアや治療をめぐる医療従事者と患者、あるいは患者の周囲の人々の間で認識のすれ違いや葛藤などが生じることがあるが、こうした問題やそれに対する調整は、医療の枠組みを越えた文化・社会的な要素を含んでいる。本授業では、医療人類学の理論や事例を学び、「病氣」や「健康」の概念を再検討し、医療を多角的に捉える視点を身につける。
	国際関係論	1～2	後期	木	5	1	3	池見真由 (佐々木泰史)	現代の世界は、グローバル化が進展し、国境を越えた人・物・情報の流れが急激に増加・加速している。こうしたグローバル化社会における保健医療専門職は、地球規模で人々の健康の維持と向上に貢献することが求められ、国籍や人種が多様な対象者の政治・経済・文化的な背景を理解しておく必要がある。本科目では、第1に国際社会の仕組み・特徴や歴史的発展について、第2に日本と特に関係の深い国・地域の政治・経済・文化的な背景や日本との関係について学ぶ。これにより、グローバル社会における複雑な政治経済情勢や地球規模の諸課題を多角的な視点から理解することを目的とする。

区分	開講科目名	開講年次	開講時期	時間割		単位数	募集人員	科目担当責任者	講義概要
				曜	開講時間(講目)				
一般教育科目	国際協力論	1～2	後期	木	5	1	3	池見真由 (佐々木泰史)	現代の世界において、開発途上国は国の数で約4分の3、人口で3分の2以上を占めている。その多くは紛争や貧困といった政治・経済面での困難な問題を抱えており、衛生状態の悪化、感染症の蔓延、環境破壊などによって当該国の人々の健康が脅かされている。また、国境を越えた人・物・情報の流れが急激に増加・加速するグローバル化を背景に、これら途上国における問題は世界中の人々の健康にも不安を与えている。本科目では、グローバル社会の一員として開発途上国を支援し、世界のすべての人々がより良く生きられる未来を目指す国際協力について、基本的な概念や仕組み、国際協力政策の変遷、国際機関・先進国・NGOなどの役割と支援・活動などについて学ぶ。
	情報科学	1	前期	金	1または2	2	3	大柳俊夫	本講義では、情報科学の基礎として、コンピュータシステムの構成要素と動作原理、情報の取り扱い、ネットワークとデータベース、そして情報セキュリティについて学習する。これらの学習を通して、コンピュータやネットワークの特性・限界を知り、日常的に直面するさまざまな“トラブル”の予防や対応のための基礎知識と実践の習得を目指す。さらに、コンピュータシステムの保健医療分野への応用の現状について理解する。
	統計学	1	後期	火	3	2	3	大柳俊夫	医療従事者にとって、医療の現場で日常的に発生するデータや情報を適切に取得、処理し、なおかつ説得力をもって他者に伝える表現能力は必要不可欠のことと言える。本講義では、基礎的な統計学として、データの整理・分析方法、推定・検定方法の基本について学習する。また、実習を通して学習したデータ整理・分析方法、推定・検定方法の考え方の理解を深めるとともに、いわゆる“統計のセンス”を身につける。
	家族関係学	2	前期	木	2	1	3	丸山洋平 (白土明子)	家族は生活の原点であり社会の最小単位としてとらえられており、国の政治、経済や社会状況に影響され変化する。本科目では、家族の構造・機能やライフサイクルの変化を理解し、我が国における家族の形態や機能の変遷を概観する。現代までの家族の変容、結婚、夫婦の役割意識の変化、介護や社会制度についての理解に基づき、家族が抱える課題について学習し、家族の健康を維持するための保健医療職の役割について学ぶ。
	人間とアート	1～2	後期	月	5	1	3	川上理恵 (高橋義信)	医療は「サイエンス」と「アート」の2つの側面が存在すると言われており、自然科学的な知識や技術のみでより良い医療は成り立たない。本科目では、人間にとつて「アート」とは何か、なぜ必要なのか、感性とは何かを理解し、言語に頼らず感じ取る力を養う。
専門基礎科目（3学科共通）	人間発達学1	2	前期	火	3	1	3	高橋義信	人間発達がいかなるものか、それにどのような要因が影響するのかという事を通して、発達する生命体としての人間に対する理解を深める。またライフステージの各時期では、どのような形態機能的、認知的、社会情動的特徴があるのかを理解し、各時期にどのような発達上の問題が生じるのかを学ぶ。
	人間発達学2	2	前期	水	1	1	3	田畑久江	本科目は人間発達学1を基盤として、小児期のリハビリテーションおよび看護に必要な運動、認知、知能の発達理論およびその評価に関する知識の提供を行う。特に、人間の胎児期から就学期までの発達原理の理解を深めるため、身体と精神、認知、情緒、社会性の発達が、横断的かつ縦断的に相互関係を持ちながらどのように育まれていかに焦点を当て学習を行う。また、講義とともに関連書籍の精読を行い、レポートとしてまとめることも課題とする。
	臨床心理学	2, 3	前期	木	1	1	3	山本創 (澤田いずみ)	心理学には心の科学として様々な研究や理論が積み重ねられてきた歴史がある。臨床心理学はそれらを土壌としつつも、単に科学的な知見だけでは整理のつかない個別性と歴史性を持つ生身の人間のこころを対象としており、その人が人間関係や社会の中で生きているうちに抱えるに至った、こころの課題を理解し援助するための実践的学問である。 本講義では今日の臨床心理士が、援助の対象となった方々のこころをどのように理解し、援助関係を紡いで、ご本人との共同作業としての援助をおこなっているのかについて、具体的な事例を交えながら講義を行う。 援助の場面であれ、そうではない場面であれ、人が人を理解するという事は相手との関係性に基いた営みである。だから本当に理解するためには、相手を理解することのみに留まらず、自分自身を理解し、自分と相手の関係性を理解し、二人が出会っている環境や社会を理解するという複眼的な思考が必要となる。本来、職種別を問わず対人援助職にはそのような視点が必要不可欠であり、本講義の受講が学生諸君にとってその獲得の第一歩となることを目指したい。
	災害医療・保健活動論	2	後期	水	2	1	3	秋原志穂	近年、災害の頻度や規模が拡大し、被害も増大している。本科目は、災害の種類や特性、災害が人々の生活や健康に及ぼす影響を理解し、保健医療専門職として、被災者の医療、生活支援を行うために必要な基礎的能力を養う。また、避難所運営演習では避難所で起こる様々な課題への対処を模擬体験し、被災者の健康管理のあり方の理解を図る。
	救急医療総論	2	前期	火	2	1	3	岩本えりか	急病や事故などの救急状況は思いもよらぬ時に起き、誰もが遭遇する可能性がある。特に医療者には、このような救急状況に遭遇したときに冷静に状況を判断し応急処置を行うことが期待される。本教科では、救急医療についての概念を学ぶとともに、救急状況にある患者と家族の特色と救急医療における理学療法士、作業療法士、看護師それぞれの役割を学ぶ。また、基本的な応急処置に必要な知識・技術について、実技・演習を通して身につけることをねらいとしている。
	社会と健康史	2	前期	木	2	1	3	秋原志穂	医療とそれを取りまく社会情勢が目まぐるしく変化するなか、医療と社会のつながりを理解することが求められている。人の健康は経済や戦争といったその時代・国の文化、社会情勢により影響され、医療職もまたその影響を受けて発展してきた。本科目は、医学の歴史とともに、医療と関わり深い社会問題を学び、人々の健康生活は社会にどのような影響を受けているのか、医療はどのような社会を背景に発展してきたのかを理解することを目的とする。そして、各職種の立場から人々の健康と生活・権利を守るための社会の在り方を考えることを目指している。
	人間関係論	1	後期	水	2	1	3	川俣智路 (澤田いずみ)	「こちらはこんなに頑張って関わっているのに、なぜ受け入れてもらえないのだろうか」、「なぜこの同僚は私にこんなに批判的なのだろうか」。人が人に何かを働きかけると、たとえば援助するときや共同で仕事をするときには、活動が円滑に進むかに加えて人間関係が上手く築けるかどうかが必要となってきます。人間とは、この人と人との関わりを通じて変容したり成長したりするのです。 本講義では、援助、指導、協働などに関わる人間関係について体験的に理解し、専門職としての成長を目指すものです。
	リハビリテーション概論	1	前期	木	3	1	3	坂上真理	リハビリテーションは、医学的リハビリテーションから社会福祉的、職業的なリハビリテーションまで広範な概念を含むもので、その実践にはさまざまな専門職がチームを組んで実践している。ここでは、領域を超えた包括的な視点に立って、リハビリテーションの概念とその実際について学習する。

区分	開講科目名	開講年次	開講時期	時間割		単位数	募集人員	科目担当責任者	講義概要
				曜	開講時間(講目)				
専門基礎科目(看護)	解剖学	1	前期		月3～4 木3～4	2	3	齋藤悠城	ヒトの機能や病態を理解するには、正常な人体の構造を理解しておくことが必須である。そのため、解剖学は看護学科目の中心として最も重要な基礎科目のひとつとなっている。解剖学では、人体を構成する骨格系と筋系、神経系、心臓・脈管系、呼吸器系、消化器系、泌尿生殖器系、感覚器系において、各器官がどのような様に構築され、またどのように機能と関連しているかを学習する。さらに、人体の成り立ちを学ぶことで各器官の複雑な立体構造の構築とその意義をより良く理解できること、さらに助産師を目指す学生にとっても人体の発生プロセスの理解は重要であるため、発生学をプログラムに組み込んでいる。単なる暗記学習とならないためにも、人体の各構造物の科学的な意味と機能的関連を考えながら学習を進めることが重要である。実際の正常な臓器や病理標本の観察実習、人体解剖の体験実習をとおしても知識を深める(時期は6月中旬)。体験実習では、単なる見学ではなく、各部の構造に触れて観察をおこなう。「より良い医療従事者になるために、自分の身体を使って十分に勉強して下さい」という願いをこめて献体されたご遺体を用いるので、解剖学の知識の習得と同時に、献体に対する感謝の気持ちと、その期待に応える責任と自覚を持って取り組む。さらに、正確に3次元構築されたデジタル解剖台を用い、バーチャル解剖実習によって人体の構造と機能を学ぶ。
	生理学	1	後期		月5 火5 木1～2	2	3	丹野雅也	生理学は生体機能を固体、器官、組織、細胞レベルで説明する学問である。本講では生体の恒常性の維持や基礎活動がどのように営まれているのかについて理解するため、循環、呼吸、消化吸收、代謝、内分泌、排泄、体液、神経、筋、生殖、血液、免疫の制御・調節機構を概説する。
	栄養生化学	1	後期	金	1	1	3	佐々木泰史	ヒトは種々の栄養素を外界から摂取し、体内で種々の反応を経てエネルギーや必要な生体構成物質などに変換する。そして、不要物は体外に排泄する。また、ヒトの健康は栄養のとり方に大きな影響を受けている。看護における「食」看護実践の目標は、患者の健康・栄養状態を改善し、食生活を整え、自立をサポートすることにある。そのため、食事と栄養、栄養素の代謝過程に関する知識を得ることは実践上極めて重要である。栄養生化学では、生命に不可欠の栄養素の摂取と体内利用の仕組み(生体内の化学反応)、そして、食生活・食行動との関連からヒトにとっての栄養を学ぶ。
	病理学1	1	後期	月	4	1	3	水口 徹	病理学1では、臨床看護に必要な病態の基礎となる病理学の総論を体系的に学習する。看護と病理の関係・役割を理解する。細胞レベルで起る組織の再生や修復のメカニズムを理解する。循環障害として浮腫・出血・血栓塞栓を理解する。炎症と免疫・移植拒絶について理解する。感染症について理解する。先天性代謝異常や遺伝異常症について理解する。老化と死について理解する。腫瘍の基礎を理解する。次年度の病理学2に向けて、基礎的な知識を涵養する。
	病理学2	2	前期	月	4	1	3	水口 徹	実臨床および国家試験を念頭にし、病理学1での基礎的総論の知識を基に各疾患の病因病態を理解する。循環器・血液・造血器・呼吸器・消化器・腎泌尿器・婦人科・乳腺・内分泌・脳神経・筋骨格について疾患と病因を理解し説明できるように概説する。
	症候と病態	2	前期	月	5	1	3	丹野雅也	看護とは、あらゆる場であらゆる年代の個人および家族、集団、コミュニティを対象に、対象がどのような健康状態であっても、独自にまたは他と協働して行われるケアの総体であり、健康増進および疾病予防、病気や障害を有する人々あるいは死に臨む人々のケアが含まれる(国際看護師協会)。このような観点から、看護師として各々の患者に適切な支援・ケアを行うためには、医療の現場で行われている診断・治療の知識を習得することは必須である。本講では幅広い内科疾患の診断・治療に関する医学的知識を概説する。
	医療薬学	2	前期	月	1	1	3	福土将秀 (丹野雅也)	薬物療法は疾患や症状を有する人々に最も多く用いられる治療法である。薬物療法にかかわる看護の役割は、患者が医薬品を安全に使用することができるように援助することである。 本科目は、医薬品の体内動態や薬物療法に関する基礎的知識に加えて、臨床現場で知っておくべき医薬品情報や医薬品の安全管理と適正使用法、チーム医療など看護実践に求められる知識・技術を教授する。
	疾病治療概論	2	前期	木	1	1	3	丹野雅也	看護とは、あらゆる場であらゆる年代の個人および家族、集団、コミュニティを対象に、対象がどのような健康状態であっても、独自にまたは他と協働して行われるケアの総体であり、健康増進および疾病予防、病気や障害を有する人々あるいは死に臨む人々のケアが含まれる(国際看護師協会)。このような観点から、看護師として各々の患者に適切な支援・ケアを行うためには、医療の現場で行われている診断・治療の知識を習得することは必須である。本講では幅広い内科疾患の診断・治療に関する医学的知識を概説する。
	疾病治療論1	2	前期	火	4	1	3	丹野雅也	看護とは、あらゆる場であらゆる年代の個人および家族、集団、コミュニティを対象に、対象がどのような健康状態であっても、独自にまたは他と協働して行われるケアの総体であり、健康増進および疾病予防、病気や障害を有する人々あるいは死に臨む人々のケアが含まれる(国際看護師協会)。このような観点から、看護師として各々の患者に適切な支援・ケアを行うためには、医療の現場で行われている診断・治療の知識を習得することは必須である。本講では幅広い内科疾患の診断・治療に関する医学的知識を概説する。
	疾病治療論2	2	後期	水	1	1	3	水口 徹	疾病治療論2は、外科的治療に必要な医学的基礎知識を身につけることを目的とする。総論では外科的治療の基本概念となる手術侵襲と代謝・栄養などを学び、各論では消化器疾患、内分泌疾患、乳腺疾患、循環器疾患、小児疾患、脳神経疾患、婦人科疾患、泌尿器科疾患、耳鼻科疾患の中から代表的な外科的疾患の概念とその治療方法について学ぶ。専門的講師陣により手術適応、術後病態と看護要点、合併症と対策などを学び、実地臨床に必要な基礎力を養う。
	疾病治療論3	2	後期		月4 火4	1	3	浅利剛史	本科目では、周産期におこりやすい異常の診断と治療の概要、そして胎児・新生児期から小児期、思春期および更年期におこる疾患とその診断・治療の概要について学ぶ。講義は主に産婦人科医師、小児科医師らによって行われる。看護師としてケアする上で必要となる基本的な診断・治療プロセスと診断・治療の動向についても学ぶ。
	疾病治療論4	2	後期	木	3～4	1	3	丹野雅也	本科目は、精神看護と老年看護に必要な医学の基礎知識を学ぶことを目的とする。精神領域では、精神の障害に対する精神医学的立場からの治療総論と主要な精神疾患の診断とそれらの治療について教授する。老年領域では、高齢者に多くみられる症状や疾患の特徴について教授する。また、一般的な病態生理や治療をふまえて高齢者の治療上の留意点などについて理解を深める。
	疫学	2	前期	木	4	1	3	山本武志	疫学とは人口集団の中で出現する健康関連のいろいろな事象の頻度と分布およびそれらに影響を与える要因を明らかにして、健康関連の諸問題に対する有効な対策立案に役立てる学問である。本科目では集団における健康事象の因果関係を推論・確定し、予防のための方法論について学習する。疫学の概念、基本的指標、方法論、分析方法、因果推論等について基礎的な知識を学び、その上で、健康問題の具体例を用いて、疫学調査研究や倫理に関する問題について学習する。また、健康問題に与える社会的・経済的要因(職業、ジェンダー、教育、所得、貧困、社会階層)や環境・文化、それらの集合体である社会構造ともいえるエコロジカルすなわち生態学的な要因にも着目する(社会疫学)。

区分	開講科目名	開講年次	開講時期	時間割		単位数	募集人員	科目担当責任者	講義概要
				曜	開講時間(講目)				
	保健統計学	2	前期	金	3	1	3	加茂憲一	本講においては、看護学におけるデータを取り扱う際に必要となる統計学的手法の習得を目的とし、数理統計学の基本的な概念から応用的な側面までの講義を行います。高校までに学習した統計学の知識を踏まえ、確率の概念、統計学的仮説検定、回帰分析に関する理論の理解と、それらを統計ソフトウェア「R」を用いて実現するノウハウを学びます。最後に、統計学の応用例として検診における感受性と特異性に関する内容を紹介します
	保健福祉行政論	3	前期	月	2	1	3	深川周平	看護の対象となる人間は、地域社会の中で生活を営む存在であり、社会保障制度や保健医療システムに影響を受けている。保健・医療・福祉の体系と施策・制度の仕組み、社会福祉・社会保障の機能や活用方法を含め、諸制度とシステムについて学習する。また、保健・医療・福祉サービスを実施、評価し、調整するために必要な基礎的な知識を学習する。社会保障制度や保健医療システムを踏まえて、人びとの健康的な生活が向上するように支援するための看護活動のあり方について学ぶ。
	健康管理論	2	前期	水	3	1	3	青木亜砂子	「健康管理」は疾病と健康の間にある、人々の生活基盤の中で、自らの健康を保持・増進あるいは回復させ、生活の向上を図っていくために必要な保健・医療技術を組織的に提供し、人々の健康生活を支援する一連の活動のプロセスである。健康の維持・増進、疾病異常の監視、回復を目的として、個人や集団に対して行う幅広い活動のことをいう。以上のような観点から地域における保健活動を行うための基礎となる健康教育の理論とその現場への適用について学び、実践につなげることができるように学習する。
	社会福祉学	2	前期	金	2	1	3	川勾亜紀奈 (谷口圭吾)	日本の社会福祉の歴史を概観し、社会福祉の基本的な考え方を理解する。わが国における社会福祉の仕組み、考え方、現状の概要を学ぶ。また、医療従事者に必要な社会福祉関係の知識の獲得、チーム医療実践の必要性を学ぶ。
	環境保健論	2	後期	月	1	1	3	山本武志	私たちをとりまく物理学的環境、化学的環境、生物学的環境、社会的環境は人々の生理機能に影響を与え、健康、健康障害の発生に大きく関わっている。健康問題を環境との関わりから広く理解し、疾病の予防、健康増進を図るために良い環境とは何かを学ぶ。加えて、環境測定の手法を身につける。
	医療経済学	2	前期	月	2	1	3	山本武志	日本の医療制度は多くの先進国から高い評価が得られている一方、医療費の増大に伴って国民負担(社会保険料と租税の負担)が増加しており、制度の維持・安定化の方法が問われている。本科目の目的は、日本の経済と財政の動向と課題を整理して、国民皆保険制度の意義を踏まえながら今後の医療制度改革の方向を考えることにある。
	看護学概論	1	前期	金	5	1	3	堀口雅美	看護を学ぶ出発点として、その主概念である「看護」「人間」「健康」「環境・社会」について学習する。主な内容は「看護の歴史の変遷と専門性」、「看護の目的と役割機能」、「人間の基本的な特性」、「健康の概念」、および「健康レベルの視点からみた社会の課題と看護の役割」である。看護の目的・対象・方法についての理解を深め、実践としての成立要素を洞察し、看護の本質や看護者としてのあり方に関する自らの考えを構築する基盤を養う。
	ヘルスアセスメント2	2	後期	火	2	1	3	澤田いずみ	本科目では個人・家族単位の精神・心理社会的アセスメントについて講義と演習を通して学習する。個人の精神状態の視点、ならびに心理社会的アセスメントに必要な情報と理論を理解し、情報収集方法としての積極的傾聴について基本的態度を学ぶ。また、家族アセスメントについては、発達する家族、システムとしての家族、家族の対処機能について理解し、アセスメントに必要な情報と聴取の方法について学ぶ。
	看護倫理	2	後期	木	2	1	3	秋原志穂	保健医療の臨床において、看護職はますます中心的な役割を果たすようになり、その結果、様々な倫理的ジレンマに直面する機会が増えた。よりよい看護を実践するには、一人一人の看護職が高い倫理感を身に付ける必要がある。本科目では、看護倫理の背景、専門職の倫理、倫理原則、臨床で起こる倫理的問題へのアプローチ方法について学び、看護職に求められる社会的な役割と責任を考察することで看護倫理に関する理解を深める。
	成人看護学概論	2	前期	水	2	1	3	澄川真珠子	成人期にある対象の看護を実践するために、成人のライフステージにおける身体的諸機能の変化、心理的・社会的発達課題やライフサイクルがもたらす健康障害の概要について「生活者」の視点を踏まえながら学習する。また、理論を活用して成人期各期に特徴的な病態事例の看護展開方法について発達課題を視野に入れながら学習する。さらに成人の特徴や能力に応じたアプローチの必要性および健康の保持・増進・疾病予防の方法について学習する。
	老年看護学概論	2	後期	木	1	1	3	長谷川真澄	本科目では、老年看護学の基本的な考え方および加齢に伴う心身の変化と生活の特徴、わが国の少子高齢化と保健医療福祉政策の動向について学ぶ。具体的には、高齢者疑似体験、高齢者へのインタビューや観察、グループ学習などの学生の主体的な学習活動をととして高齢者への理解を深めるとともに、高齢社会における看護の役割について考える。
	小児看護学概論	2	後期	月	2	1	3	今野美紀	本科目は小児看護における主要な概念である「小児」「家族」「健康」「成長」「発達」「環境」「社会」について学び、その看護の目的・方法について検討する。主な内容は「小児看護の主要な概念」「小児の人権」「小児と家族」「小児を取り巻く環境と政策・法律」「小児の成長と発達」である。学習主題ごとにグループを主体としたミニ演習が計画されており、学生は学んだ知識をその都度、活用しながら学習を進めていく。
	母性看護学概論	2	後期	火	3	1	3	正岡経子	本科目では、母性とは何かを考え、母性をめぐるさまざまな定義を理解すると共に、女性の健康について国内外の母子保健の動向およびライフサイクル各期の身体的・心理的・社会的な観点から幅広く理解し、女性のライフサイクルに関わる母性看護の特性と役割について学習する。また、リプロダクティブヘルスに関わる倫理的課題を通して、看護者の役割を考察する。
	精神看護学概論	3	前期	金	3	1	3	澤田いずみ	本科目は、「精神の健康」という目に見えず、形として捉えにくく、それでいて誰にとっても身近で重要な概念について触れ、それを言葉にして語り、さまざまな人間関係の中に潜む精神看護の「精神の健康」に寄与する活動を理解することを目的とする。具体的には、精神医療の歴史、精神に障害のある人の処遇、精神に障害のある人の自己実現や人権擁護、家族の精神保健等について考察し、精神看護の目的と役割について学ぶ。

区分	開講科目名	開講年次	開講時期	時間割		単位数	募集人員	科目担当 責任者	講義概要
				曜	開講時間(講目)				
専門科目 (看護学関連)	在宅看護学概論	2	後期	木	2	1	3	青柳道子 (平野美千代)	在宅看護の概念を理解する。在宅看護に関する国内外における歴史を踏まえ、現在の社会的・時代的ニーズや実態について学び、在宅看護の意義および基本的な機能、役割を理解する。在宅看護の目標、活動と対象者の特性を理解し、在宅療養者や障がい者およびその家族の健康と生活、生活への支援、家族へのチームアプローチのあり方等、在宅における看護の基礎的知識について理解を深める。看護ならびに関係者との協働をとおした在宅ケアにおける看護職の役割について学び、在宅看護における倫理ならびに法的責任、在宅看護が抱える問題と今度の課題について学習する。
	地域看護学概論	2	前期	金	4	1	3	平野美千代	地域看護は人々の健康な暮らしを支援する看護として、疾病構造の変化とともに看護支援の内容や方法を変化させてきた。本科目は、地域看護の歴史の変遷を概観し、地域看護の定義や理念、地域看護活動の目的や地域看護活動の基盤となる関連法規や制度について学習する。市町村・保健所、産業、学校、在宅という地域看護活動の場とそれぞれの特徴を学習する。また、地域看護の活動方法の共通する特性と、地域看護の機能と役割について学習する。
	看護安全管理論	4	前期	金	4	1	3	秋原志穂	医療における安全は患者・医療者にとって最も重要なものと認識されているが、未だ医療事故が起こっているのが実情である。本科目において学生は、医療事故の特徴と医療における安全の確保とはいかなることかを学び、安全で質の高い看護実践に貢献する基礎的な知識、技術、及び管理について学ぶ。
	看護情報活用論	4	後期	集中開講 (詳細未定)		1	3	山本武志	看護に関わる情報は、医療サービス提供の実態を俯瞰するうえで重要であり、医療・看護の質向上や、効率的な看護教務の推進に役立てることができる。本科目では、第1に、医療現場において医療・看護情報がどのように活用されているかを実践例を通じて理解することを目的とする。第2に、EBP(Evidence based practice)の理論、方法論を体系的に学び、医療・看護の質を向上させるためのエビデンス収集から現場においてEBPを実装するプロセスを体験する。
	災害看護論	4	後期	集中開講 (詳細未定)		1	3	田口裕紀子	本科目は、防災や災害時の看護活動に対する基礎的能力を培うために、災害サイクルの各フェーズに対応した看護師の役割と災害看護の特徴を学習する。特に、災害時対応における7つのコンセプト(CSCATT)の考え方は、我が国で発生した事例を想定して理解を深める。また、災害看護を行う上で必要となる災害医療体制や倫理的課題、災害時の被災者・支援者の心理状況について学ぶ。学習方法は講義、演習(グループワーク、技術演習)である。
	看護教育論1	4	前期	金	3	1	3	秋原志穂	今日に至る看護専門職としての発展は、看護教育の道程と相補的な関連性がある。つまり、看護教育に関わる諸問題は社会の情勢を受けながらの、過去からの連続である。そこで、本科目では、西欧や我が国の看護教育の歴史を概観し、看護教育における課題を捉えたうえで将来の展望を考えていく。また、自らの看護職生涯教育のあり方について考える。
	看護教育論2	4	後期	集中開講 (詳細未定)		1	3	秋原志穂	本科目では、看護教育論1での学習をもとに、看護学教育カリキュラムに基づいた授業の位置づけや設計について学習する。
	国際保健医療・看護	4	前期	火	3	1	3	正岡絢子	社会のグローバル化により国際的な視野で看護の役割・機能を捉え、国際活動に貢献できる人材が必要とされている。本科目では、主に開発途上国の人々の健康と保健・医療・看護の現状についての理解を深め、人々の健康に影響を及ぼす社会・経済・文化的要因について学習する。また、国際保健医療活動の実践例および国際協力活動計画の立案を通して、人々の健康問題を改善するために必要な看護職の活動を理解し、国際保健医療・看護活動における看護職の役割について学ぶ。
	看護理論	4	前期	金	3	1	3	長谷川真澄	看護理論はさまざまな看護現象を記述する、説明する、予測する、看護ケアを導くといった目的を持つ知識体系である。ナイチンゲール以来、さまざまな看護理論が開発、検証され、看護学の科学的発展を牽引してきた。本科目では、3年間の学習を踏まえつつ、看護理論について学ぶことをとおして「看護の本質」について考える。具体的には、看護理論の歴史的発展の経緯、看護理論の構成要素、看護実践への適用例などの基本的事項について学び、看護理論を用いて自身が行った看護実践を振り返り考察する。学生グループでのディスカッションを多く交えながら、4年間の学習の集大成の一つとして、また、看護専門職として臨床で働く上で必要な、各自の看護観を明確にすることを目指す。
	臨床看護コミュニケーション	4	前期	木	1～2	1	3	澤田いずみ	看護者は臨床場面において、様々な対象者と出会い、多様な人生、感情に遭遇する。質の良い看護を提供しようとし、看護の目的を達成しようとするならば、患者とのコミュニケーションを充分にとる必要がある。そして、多職種との協働においては、看護者には患者の立場に立った建設的な発言を求められる。しかし、このことは同時多発的に生じるさまざまな状況に臨機応変に対応しなければならない臨床看護の現場では、なかなか容易なことではない。患者の真意をつかまえたり、対象者の思いを汲み、看護者の意図を伝えたりするためには、意図的な学習が必要である。この科目では、基礎的な対人コミュニケーション理論を土台に、臨床看護の現場で起こり得るさまざまな患者―看護者間のコミュニケーション場面を取り上げ、看護者がより効果的なコミュニケーションを展開するために必要な基本的技術を学ぶこととする。
	認知症ケア	4	前期	水	3	1	3	木島輝美	認知症をもつ人が体験している世界および生活の特徴を理解し、パーソンセンタードケアなどの理論に基づく看護援助について学習する。また、認知症をもつ人とその家族、ケア提供者がかかえる倫理的諸問題について分析し、より良い意思決定の支援について学ぶ。
	看護政策	4	後期	11月に集中開講 (詳細未定)		1	3	平野美千代	人々のニーズに応える質の高い看護を実現するためには、医療・看護に関する諸制度の改善・改革に取り組むことが求められる。また政策決定に参画することは、看護職が自らの能力を十分に発揮し社会に貢献していく上で必要不可欠である。本科目では、看護に関する諸制度を踏まえて我が国の医療・看護に関わる諸課題を理解するとともに政策決定に参画することの意義と役割、政策決定過程の概要を学習する。また、北海道の医療・看護が抱える諸課題と看護政策のあり方を知り、改善・改革の方向性を展望する。
	神経科学の基礎	2	後期	月	4	1	3	石井貴男	この科目では、脳の可塑性をテーマに、「神経系の発生・分化および成体の神経新生」「神経の変性と再生」「睡眠・覚醒の調節機構」「前頭葉機能と精神疾患」「精神疾患と精神薬理学」「ストレス反応と精神機能」「運動と精神機能」「脳研究の実際」について幅広く学習し、リハビリテーションが目標とする神経機能の回復に作用する神経科学的基盤を学ぶ。

区分	開講科目名	開講年次	開講時期	時間割		単位数	募集人員	科目担当責任者	講義概要
				曜	開講時間(講目)				
専門基礎科目 (理学・作業共通)	病理学	1	後期	月	4	2	3	水口徹	病理学では、臨床に必要な病態の基礎となる病理学の総論を体系的に学習する。疾病と病理の関係・役割を理解する。細胞レベルで起きる組織の再生や修復のメカニズムを理解する。循環障害として浮腫・出血・血栓塞栓を理解する。炎症と免疫・移植拒絶について理解する。感染症について理解する。先天性代謝異常や遺伝異常症について理解する。老化と死について理解する。腫瘍の基礎を理解する。臨床病態を把握できる、基礎的な知識を涵養する。
	内科学1	2	前期	木	4	2	3	丹野雅也	WHOにより提唱された国際障害試案の機能障害に属する内部障害は、心臓、呼吸、腎尿路、消化などの内部機能障害の総称と定義される。また我が国の身体障害者福祉法では、心臓機能障害、腎臓機能障害、呼吸機能障害、膀胱直腸機能障害、小腸機能障害、HIVによる免疫機能障害、肝機能障害の7つを内部障害(内部機能障害)と規定している。2年前期で開講される内科学1は、内部障害の原因となる内科疾患の理解を目的に開講する。医療の現場で行われている診断・治療の知識を習得することは、各種病態・疾患における適切なリハビリテーションの意義を理解し各々の患者に適切なケアを行う上で必須である。本講では幅広い内科的な疾病の診断・治療に関する医学的知識を概説する。
	神経内科学	2	後期	月	2	2	3	齊藤正樹	リハビリテーションを行う上で、理学療法士・作業療法士に必要な臨床神経学の基礎を学習する。また、リハビリテーションの際に理学療法士・作業療法士が理解すべき神経内科疾患を概説する。
	外科学	2	後期	水	1	2	3	水口 徹	外科治療における医療スタッフとして必要な基礎知識を習得する。専門領域ごとに術前管理・術後管理には特徴があり、本学を代表する専門講師陣により、基礎知識から高度専門領域までを網羅した近代外科を結集した包括的授業となる。国家試験に必要な知識はもとより、卒後の実地臨床に必要な知識に加え、生涯学習につながる将来の課題を見いだせることを目標とする。本科目では周術期におけるリハビリテーションとの分担的役割を外科治療の基礎と実際の疾患と関連づけた統括知識として習得する。国家試験に対応した実践的な問題に対し、十分な理解力と回答力を涵養する。
	整形外科	2	前期	水	2	2	3	谷口圭吾	脊柱および四肢の骨・関節・神経・筋組織は身体の運動に直接関与する。これら運動器に発生する外傷・障害を機能解剖、病態生理の面から解説し、保存的・外科的治療の適応と方法を解説する。
	小児科学	2	前期	月5 金2		2	3	齊藤正樹	小児のリハビリテーションを行う上で、理学療法士・作業療法士に必要な小児神経学および小児科学関連領域の基礎を学習する。また、リハビリテーションの際に理学療法士・作業療法士が理解すべき小児科疾患を概説する。
	精神医学1	2	後期	木	3~4	1	3	石井貴男	精神障害者を診る・治療するという観点から精神障害の内容とその症状、診断、治療など医学的問題について学習する。学習内容としては「精神医学総論」の学習を通して、精神症状の種類や特徴、精神疾患の疫学・成因について理解を深める。さらに主たる精神疾患として「統合失調症とその関連障害」「気分(感情)障害」「神経症性障害」「器質性精神障害」「精神作用物質による精神・行動の障害」「生理的障害および身体的要因に関連した障害」の学習を通して、それぞれの精神疾患の概念、疫学、症状、診断、治療について理解を深める。
	精神医学2	2	後期	木	3~4	1	3	石井貴男	精神障害の医学的問題と精神障害者を取り巻く社会的問題点について学習する。具体的には「精神障害の診断と評価」、「成人のパーソナリティ・行動・性の障害」「心理発達障害および精神遅滞」について理解を深めるとともに「精神科の歴史と法体制」「臨床心理学と精神障害」「精神障害者の社会復帰と精神保健福祉」の学習を通して精神科医療の歴史や社会制度、精神障害者の社会復帰と精神保健福祉の実践について学習する。さらに「地域精神障害医療」の学習では、当事者(患者さん)の講演を通して精神障害者の実問題や地域精神医療について理解を深める。
	老年医学	2	後期	火	5	1	3	垣内英樹 (齊藤正樹)	本科目では、高齢者の医療や介護、福祉の実践に必要な高齢者の特徴、高齢者に特徴的な症候と疾患について学習する。具体的には、老化の概念と高齢者の身体及び精神機能的特徴を理解する。さらに、高齢期に生じる疾患の医学的治療法や、高齢期の諸問題に対する医学的マネジメント、認知症の原因、診断、治療法について学ぶ。
	公衆衛生学	2	後期	月	1	1	3	山本武志	私たちをとりまく物理学的環境、化学的環境、生物学的環境、社会的環境は人々の生理機能に影響を与え、健康、健康 障害の発生に大きく関わっている。健康問題を環境との関わりから広く理解し、疾病の予防、健康増進を図るために良い環境とは何かを学ぶ。
	臨床検査・薬理学	3	前期	水	4	1	3	石井貴男	リハビリテーションの臨床では病態を正確に把握するための臨床検査と各種非破壊画像診断技術は、対象者の治療を行う基盤となる知識であり、本講義ではその基礎について学ぶ。 また、薬物療法はリハビリテーション治療過程において最も考慮すべき要因の一つであり、患者の投薬状況を的確に把握できるように、薬物の性質と薬理作用についても学習する。
	臨床栄養学	3	前期	木	2	1	3	太田久晶	臨床栄養とは、栄養科学および医療の原理を、栄養素の欠乏症、過剰症あるいは代謝の均衡異常によって生じた人の疾患の診断、治療、および予防のために応用することである。近年は食生活の変化から疾患構造が変化しており、生活習慣病の概念から、これまでの早期発見・早期治療から早期介入・疾患予防が目標とされている。それゆえリハビリテーションの立場から健康維持・増進や疾患予防を含めた、治療のための栄養に関する知識を学ぶ。

区分	開講科目名	開講年次	開講時期	時間割		単位数	募集人員	科目担当責任者	講義概要
				曜	開講時間(講目)				
	リハビリテーション医学	3	前期	火	1	1	3	井平光	リハビリテーション医学の位置づけおよび歴史、および特質を理解し、さらに基礎となる医学的知識および診断、治療の方法論、代表的疾患のリハビリテーションについて学ぶ。
	社会保障論	3	前期	月	2	1	3	佐藤克彦 (池田望)	基本的人権としての生存権を保障する制度としての社会保障制度の概念、歴史、および保健・医療・福祉の体系と施策・制度の仕組みを学び、社会福祉・社会保障の機能や活用方法と課題について理解する。
専門科目(理学)	日常生活活動学	2	後期	木	1	1	3	井平光	日常生活動作(ADL)とは人間の諸活動を支える基本的活動であり、その意義と把握の仕方を理解するための評価指標を学習する。とくに、国際的に使用され臨床的にも使用頻度の多いADL評価指標を学習する。また、起き上がりや立ち上がりなどの基本動作の評価や、食事やトイレ動作を含むADL動作の評価方法を習得する。
	理学療法概論	1	前期	金	4～5	1	3	谷口圭吾	これから理学療法を志す学生達と共に理学療法の理念、倫理、歴史を学びつつ、医療人としての理学療法士はどのような人間像が望まれているのか、社会が我々に何を期待しているのかなどを考える。また、医学的リハビリテーションの中を果たすべき役割を自覚し、リハビリテーションに関与する他の職種、職域を理解しリハビリテーションチームの円滑な運営方法について討議する。専門教員が理学療法の面白さについて講義する。
	理学療法管理・政策学	3	前期	水	1	1	3	片寄正樹	理学療法士としての職業倫理、および臨床におけるリスク管理について理解するとともに、病院、施設の組織および理学療法施設基準、診療報酬等を含む理学療法部門の管理・運営について学ぶ。また、理学療法の知識・技術の更なる社会還元を目的とした行政施策への関わりを学ぶ。
	内部障害理学療法評価学	2	後期	水	2	1	3	岩本えりか	身体運動を遂行するためには、呼吸循環機能による酸素運搬系と二酸化炭素排出系の円滑かつ総合的な働きが必要となる。本科目においては、これらの基礎を学び、呼吸器疾患や心大血管疾患、代謝障害の理学療法におけるモニタリングの内容や必要性について学習する。また、胸部レントゲン写真や冠動脈造影、CT、MRI等の画像所見についても学び、各種モニタリング指標との関連性についても理解を深める。
	義肢装具学	3	前期	金	3	1	3	菅原和広	一時的あるいは永久に身体機能を消失した時、その機能を身体外部から代償する方法を学ぶ。四肢及び体幹の形態が残存している場合に用いる装具と、消失した場合に用いる義肢、及び車椅子について、材質やその構造や機能について学び、個々の患者や障害者の有する機能不全に適した義肢装具の処方、採寸、採型、製作、適合判定を学習する。
	運動器障害理学療法学	3	前期	月	3	2	3	片寄正樹	運動器障害に対する理学療法を総合的・系統的に学習する。運動器障害に対する評価に基づいて、運動療法を主体とした治療の理論を学習する。
	神経障害理学療法学	3	前期	水	2	2	3	菅原和広	末梢神経障害、脊髄損傷、脳卒中、基底核障害、小脳障害などの神経障害によって生じるさまざまな病態の詳細な理解、および神経科学に基づいた神経障害に対する臨床的推論について演習する。また、神経病変によって起こるICF構成要素間の相互作用に基づいた評価プロセス、および理学療法治療を学習する。
	内部障害理学療法学	3	前期	木	3	2	3	岩本えりか	これまでに学習した運動生理学や内科学、内部障害系評価学を基盤として、内部障害に対する理学療法を展開するために必要な評価手法と運動療法について学習する。具体的な診療情報(カルテ情報)から必要なデータを読み取り、医学的な検査結果の所見と理学療法の評価結果との関連性を統合、解釈することの重要性について理解する。
	発達障害理学療法学	3	前期	水	1	1	3	菅原和広	脳性麻痺、筋ジストロフィー、二分脊椎、ダウン症候群などの姿勢と運動の異常を示しながら発達する障害児に対する理学療法(評価と治療)を学習する。正常な運動発達を理解することにより、神経系障害に起因する運動障害と運動器系障害に起因する運動障害の違いを学習し、理論的背景のある小児理学療法を理解する。
	地域理学療法学	3	前期	水	3	2	3	井平光	リハビリテーションの理念を基に、地域リハビリテーションについて理解を深め、理学療法の役割や考え方、方法を学ぶ。在宅障害者(小児～高齢者、身体障害～精神障害)や高齢者のニーズを理解し、地域における理学療法の展開(通院、通所、訪問)を学ぶ。また、社会資源の理解とその活用方法も学習する。
	生活環境学	3	後期	詳細未定		1	3	佐々木健史	環境は、障害や老化により心身の機能が低下している方にとって、自立やQOLを規定する重要な要因となる。本科目では、ICFの考え方にない、健康や活動と環境の相互作用を理解し、その上で環境調整のための評価と方法論を学習する。また、住環境整備や福祉機器の選定に関する知識・技術を習得する。
目専門 作基 業礎 科	運動生理学	3	後期	月	2	1	3	岩本えりか	身体運動をコントロールする様々な器官(脳・神経・骨格・筋・呼吸・循環・代謝・内分泌)に関する応用生理学的なメカニズムを学ぶ。特にリハビリテーションと関連した身体機能の向上と老化速度の意味するものを運動生理学の研究成果を基礎にそのメカニズムを理解する。また、各種トレーニング法の原理や運動と環境、エネルギーバランスと体重調整、運動と健康増進プログラムなどの理解を深める。

区分	開講科目名	開講年次	開講時期	時間割		単位数	募集人員	科目担当責任者	講義概要
				曜	開講時間(講目)				
専門科目(作業)	作業療法概論	1	前期	金	4	1	3	仙石泰仁	ヒトの生活を様々な学問領域から分析し、理解を深める。そして、生活の中の様々な作業を出来るように援助するための考え方を習得する。また、作業療法の歴史的発展を理解し、作業療法を実践するうえで必要な基礎理論、対象障害、治療技術の概略に関する理解を深める。
	作業理論と評価	3	前期	木	2	1	3	坂上真理	本科目では、作業療法の臨床実践を支える理論やモデルのうち、特に作業療法の領域全般にあてはまり、現在広く用いられている理論やモデル、それらに関連する評価法について臨床応用例を交えて学習する。
	作業療法研究法セミナー1	3	前期	金	1	1	3	仙石泰仁	作業療法の発展における研究の意義と役割に様々な研究法を文献検討などの手段を通じて学ぶとともに作業療法特別課題の基礎となる具体的な研究方法を身につける。特に作業療法に関連する各種量の研究法、文献研究、理論研究、調査研究法などの研究法や先行研究について学ぶ。
	作業療法研究法セミナー2	3	後期	金	1	1	3	森元隆文	作業療法の各領域において研究課題の選択ができるよう、研究法に関する基本的知識と研究を行う際の倫理的配慮について学ぶ。その際に、卒業研究のみならず卒後に臨床現場で研究を展開することを見据えて、各領域の臨床現場での研究の展開について学習し理解する。その後、研究課題に沿った研究目的の設定、対象の選び方、研究方法、結果の解析、倫理的配慮についてまとめ、研究計画として発表を行う。
	作業療法管理学	3	後期	水	2	2	3	池田望	作業療法を実践する上での倫理的基盤となる生命倫理および職業倫理を学ぶと共に、実際の業務遂行に欠かせない組織(職場)の管理運営、リスクマネジメント、作業療法室開設に関わる基礎的知識、作業療法士としてのキャリア開発を学習する。
	作業療法評価学1	2	前期	火	4	1	3	太田久晶	的確な内容で作業療法を展開するためには、まず、「評価」を通じて、対象者の状態、および対象者を取り巻く環境について把握の必要がある。そのため、本講義では、作業療法における「評価」についての基本的な考え方を学習し、「評価」とはどのようなものであるのか理解を深める。また、対象領域ごとの「評価」の特徴についても学び、対象者に合わせた評価内容の選択の必要性を理解する。
	日常生活適応学	2	前期	木	1	1	3	中村裕二	作業療法士は対象者の日常生活動作(ADL)を再建する専門家である。そのため作業療法士は、障害の有無に関わらず、ヒトのADLについて科学的な理解を深める必要がある。本講義では、ADLの概念と障害モデルとの関係を理解するとともに、生活の質(QOL)の理念に関する理解を深める。更に、QOLを向上させるためにADL支援や生活環境整備、社会的資源の利用が果たす役割について理解する。
	作業療法治療学総論	4	後期	詳細未定		1	3	仙石泰仁	作業療法治療過程を概観し、今後必要な知識や技術についての認識を高め、作業療法専門科目および臨床実習の内容を統合していく。その中で作業療法の治療的根拠を探索する。症例研究報告を通してそれらを検討していく。
	身体障害作業療法学	3	前期	月	3	2	3	中村真理子	身体障害領域の作業療法の対象となる疾患と臨床像を理解し、身体障害に対する作業療法の治療理論、介入方法の基礎的知識を学習する。整形外科系疾患、中枢神経系疾患、神経・筋疾患、内科系疾患の身体障害に対する作業療法の代表的疾患について医学的知識と機能障害を理解し、治療に必要な基礎知識を習得する。さらに障害像、作業療法の評価の流れ、各疾患・障害に必要な評価法と評価のまとめ方を学習する。
	精神障害作業療法学	3	前期	木	3	2	3	池田望	精神障害および精神障害を対象とする作業療法の理解を深めるために、精神保健医療福祉の現状、障害の捉え方、作業療法が果たす機能と役割、その治療構造、評価から治療・援助へ至る一連の作業療法の流れを学習する。
	発達障害作業療法学	3	前期	火	3	2	3	中島そのみ	人間の正常発達を理解し、発達障害児の評価に必要な正常な発達段階を理解すると共に、発達期に生じる種々の障害の問題点とそれらに対する作業療法の適応・その実際について学ぶ。特に発達障害児に対する評価全般にわたる知識と、作業療法治療に至るプロセスについて基本的な知識と技術について学習を行う。
	高齢期作業療法学	3	前期	金	3	2	3	坂上真理	高齢期作業療法領域で対象となる人々の障害構造並びに生活課題を理解する。それに基づき、高齢期作業療法の目的と役割、高齢期作業療法の流れと評価について学習する。さらに、対象者の特徴を踏まえた評価計画の立案方法と主要な評価法を学ぶ。

区分	開講科目名	開講年次	開講時期	時間割		単位数	募集人員	科目担当責任者	講義概要
				曜	開講時間(講目)				
統合学習	北海道の生活と健康	1	前期	水	4	1	3	井平光	北海道民の保健医療ニーズに応えるためには、北海道特有の社会的状況や環境の健康に及ぼす影響を考慮する必要がある。本講義では、道民の保健・医療、そして生活と相互作用の関係をもつ北海道の歴史と特有の環境(地域の自然、地形、気候、産業、人口、交通)について学習し、多様な観点から北海道における健康・疾病ならびに保健・医療について学習する。
	キャリアデザイン	3	前期	木	1	1	3	長谷川真澄	医療を取り巻く環境が変化していく中で、専門職に求められる役割や、能力を発揮できる場面も多様化してきている。本授業では、人間性豊かな医療人になるためのキャリアデザインに関する理論を学ぶほか、医療現場で学ぶ際に求められる接遇とコミュニケーションスキルを修得する。さらに、現場で活躍する方々との対話を通して、自身のキャリアデザインについて考える機会とする。

※科目担当責任者欄カッコ書きは非常勤講師連絡担当教員